

BEST AVAILABLE COPY

상세보기

- Full Text Download
- 마이폴더저장
- 마이폴더보기

(54) PACK COSMETIC

- (15) 국가 (Country) : JP (Japan)
- (11) 공개번호 (Publication Number) : 2000-273018 (2000.10.03) ▶ [日本語/한글\(JP\)](#)
- 현재진행상태보기
- (13) 문헌종류 (Kind of Document) : A (Unexamined Publication)
- (21) 출원번호 (Application Number) : 1999-116925 (1999.03.23)
- (76) 발명자 (Inventor) : YOKOTA TAKASHI
- (73) 출원인 (Assignee) : YOKOTA TAKASHI.
- (57) 요약 (Abstract) :
 PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a pack cosmetic for forming a having excellent compatibility with the skin, moist, soft and light to from the skin, making the smooth and tense skin.

 SOLUTION: This pack cosmetic comprises a polyvinyl alcohol, a galactomannan or glucomannan. Namely the pack cosmetic comp polyvinyl alcohol, 0.01-2 wt.% of a xanthan gum and 0.01-2 wt.% glucomannan.

 COPYRIGHT: (C)2000.JPO
- (51) 국제특허분류 (IPC) : A61K-007/00 : A61K-007/48
- FI : A61K-007/00 U
A61K-007/00 J
A61K-007/48
- 테마코드 : 4C083
- F형 : 4C083; AC022 AC122 AC172 AC482 AD111 AD112 AD211 AD241 A CC07 DD41 EE01 EE05 EE09
- (30) 우선권번호 (Priority Number) : -
- 본 특허를 우선권으로 한 특허 : -
- WIPS 패밀리 [WIPS 패밀리 보기](#)

[WIPS 패밀리/발명상태 일괄보기](#)

Full Text Download



대표전화 : 02-726-1100 | 팩스 : 02-362-1289 | 메일 : help@wips.co.kr

Copyright © 1998-2006 WIPS Co., Ltd. All rights reserved.

BEST AVAILABLE COPY

(10) 日本国特許庁 (J-P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-273018
(P2000-273018A)

(43) 公開日 平成12年10月3日 (2000.10.3)

(31) Int.Cl. A 61 K 7/00	識別記号	F I A 61 K 7/00	サーチ(参考) U 4 C 0 8 8 J
7/48		7/48	

審査請求 未請求 請求項の数4 書面 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平11-116925	(71) 出願人 566043617 横田 尚 千葉県松戸市情産平塚屋前2-17
(22) 出願日 平成11年3月28日 (1999.3.28)	(72) 発明者 横田 尚 千葉県松戸市情産平塚屋前2-17
	Fターム(参考) 4C088 AC082 AC122 AC172 AC482 AD111 AD112 AD211 AD241 AD382 AD381 AD382 AD432 AD572 C00T ED41 ED21 EE05 EE08

(54) 【発明の名称】 バック化粧品

(57) 【要約】

【課題】 肌なじみが良く、みずみずしいソフトな軽い感触で均一な皮膜を形成し肌に変しく刺激し、なめらかな、ハリのある肌にする事。

【解決手段】 ポリビニルアルコールとキサンタンガム及びガラクトマンナン又はグルコマンナンを含有する。即ち ポリビニルアルコールを7~20重量%を配合する。キサンタンガムを0.01~2重量%配合する。ガラクトマンナン又はグルコマンナンを0.01~2重量%を配合する。ことにより解決した。

【特許請求の範囲】

【請求項1】ポリビニルアルコールとキサンタンガム及びガラクトマンナン又はグルコマンナンを含有することを特徴とするパック化粧品。

【請求項2】キサンタンガムを0.01～2重量%含有する請求項1記載のパック化粧品。

【請求項3】ガラクトマンナン又はグルコマンナンを0.01～2重量%含有する請求項1記載のパック化粧品。

【請求項4】ポリビニルアルコールを7～20重量%含有する請求項1又は請求項2、請求項3記載のパック化粧品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はパック料に関し、更に刺激には緊張感・密着感が高くパック料を皮膚から剥離する際の剥がれ残りを防止し、刺激感を低減し洗浄効果、肌にしっとり感を付与する保湿効果、経時安定性、安全性に優れた、パック化粧品に関する。

【0002】

【従来の技術】ポリビニルアルコールを皮膜剤としたピールオフパックは肌へのなじみが悪く肌へ塗布する際の伸びが強く、皮膜形成性悪く乾燥後の剥離に刺激を感じ、剥離後の肌の感じはゴツキ、硬さ、白く毛羽立つなど、使用性の面で好ましくない粉末香料、乳化剤等の添加物の安定性も悪く、変臭、PH低下、ゲル化、経時変化の少ない、経皮吸収促進に優れた安全性の好ましいピールオフパックが望まれている。パック化粧料の期待される効果は1)皮膜形成により皮膚に過度の緊張感を与える、2)皮膜形成により皮膚温を高め血行を良くする、3)皮膜形成により水分の蒸発を防ぎ肌への保湿を促進する、4)皮膜の吸着作用によって皮膚表面の汚れを取り除く等である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】肌なじみが良く、みずみずしいソフトな軽い感触で均一な皮膜形成し、肌へ優しく剥離し、一皮むけた肌を生み出し、生まれ変わった肌(なめらかなハリのある肌)にする、安定性に優れたパック化粧料が得られることを見出し本発明を完成するに至った。

【0004】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の発明はポリビニルアルコールとキサンタンガム及びガラクトマンナン又はグルコマンナンを含有することを特徴とするパック化粧料である。請求項2記載の発明はキサンタンガムを0.01～2重量%含有する化粧料、請求項3記載の発明はガラクトマンナン又はグルコマンナンを0.01～2重量%含有するパック料である。請求項4記載の発明は、ポリビニルアルコールを5～20重量%含有する請求項1又は請求項2、請求項3記載のパック化粧料で

ある。

【0005】

【発明の実施の形態】以下、本発明について更に詳しく説明する。本発明に用いるキサンタンガムは、キサントモナス属菌を用いて炭水化物を分解させて、その菌体外に蓄積した多糖類を精製した天然のガム質であって、市販品としてはケルトロール(香典興業)エコーガム(五協産業)、信越キサンタン(信越化学)などがある。キサンタンガムの配合量は0.01から2重量%であり、より好ましくは0.05から1.0重量%の範囲である。配合量が0.01以下では肌なじみが良くなく、みずみずしいソフトな軽い感触が得られず、十分な添加物の安定性も得られない。また2重量%以上では粘度高くなり過ぎたり、パックを塗布する時に伸びが悪くなるなどの問題を生じ、いずれの場合も満足な結果は得られない。

【0006】本発明に用いるガラクトマンナンは豆科の多年性緑樹ローカストビーンの種子の胚乳を抽出粉砕したガム質であって市販品としてはローカストビーングム(興立化学)、ローカストビーングム(三晶)、ゲニューガムがある。グルコマンナンはAmorphophallus Konjacoの芋に含まれる貯蔵性多糖類で、市販品としてはプロポール(清水化学)がある。ガラクトマンナン又はグルコマンナンの配合量は0.01から2重量%であり、より好ましくは0.05から1.0重量%の範囲である。配合量が0.01重量%以下では肌への密着性、みずみずしいソフトな軽い感触が得られず、十分な添加物の安定性は得られない。又2重量%以上では粘度高くなり過ぎたり、パックを塗布する時に伸びが悪くなるなどの問題を生じ、いずれの場合も満足な結果は得られない。キサンタンガムはガラクトマンナン又はグルコマンナンとで水含有率の多い粘性に富むゲルを形成する。又ポリビニルアルコールと共に共存することにより、キメ細かで柔軟性のある皮膜を形成する。

【0007】本発明に用いるポリビニルアルコールは、ポリ酢酸ビニルを加水分解して得たもので、ビニルアルコールの直鎖重合物であり、完全にけん化したものと部分けん化物がある。市販品としてはクラレポハール(クラレ)、デンカポハール(電気化学)、信越ポハール(信越化学)、コーセノール(日本合成化学)などがある。ポリビニルアルコールの配合量は5～20重量%、好ましくは、10～15重量%である。5重量%未満の配合量では十分な強度の皮膜が形成されず、又パック塗布時の粘度が低い為、パック化粧料としての満足な使用感が得られず、一方、20重量%を超える配合量では粘度が高すぎるため塗布しづらいなど、いずれの場合も満足な結果が得られない。

【0008】本発明に係わるパック化粧料中には、上記の必須成分の他に、必要に応じて一般的に配合される成分

を配合することができる。このような成分としては、
βヒドロキシ酸等の有機酸、アミノ酸、ビタミン、低級
アルコール、多価アルコール、脂肪、水溶性高分子、界面
活性剤、防腐・殺菌剤、紫外線吸収剤、キレート剤、
色材、酸化防止剤、美容剤・香料、動物・植物抽出物、

実施例

フレッシュパック

1) ポリビニルアルコール	12.5
2) ローカストビンガム	0.1
3) ケルトロール	0.1
4) ヒアルロン酸Na 1%	0.1
5) グリセリン	3.0
6) 1・3ブチレングリコール	2.0
7) メチルパラベン	0.2
8) 精製水	81.0

製法

- (1) 8) に1) から5) を添加後、
80℃で加熱撹拌し溶解させる。
(2) 6) に7) を溶解したものを添加
混合し、冷却する。

このパックは肌なじみ良く（密着力）縮
いタッチ（新感触）で肌へ均一に広がり
（伸展性）、塗布しやすく、肌に優しく
（刺激性）さわやかな使い心地、一度む
けた肌を生み出します。

【0010】

【発明の効果】本発明に係わるパック化粧料はみずみず
しいソフトな縮い感触で肌なじみが良く、均一な皮膚を

香料等があげられる。

【0009】以下に実施例をあげて本発明を具体的に説
明するが、本発明はこれら実施例のみに限定されるもの
ではない。

モイストチャーパック

1) ポリビニルアルコール	10.0
2) プロポール	0.1
3) キサンタンガム	0.1
4) スクアラシ	3.0
5) 水添大豆レシチン	0.2
6) コレステロール	0.1
7) パチルアルコール	0.4
8) グリセリン	2.0
9) 1・3ブチレングリコール	3.0
10) メチルパラベン	0.2
11) 精製水	80.0

製法

- (1) 11) に3) を添加後、80℃
で加熱撹拌し溶解させる。

- (2) 5) ~7) を加熱溶解し(1)
に添加撹拌する

- (3) 9) に10) を溶解したものを
添加混合し、冷却する。

フィルムパック中のエマルジョンの、
エマルジョンを安定化し、ポリビニル
アルコールの固着感を通じ、パック皮
膜に適度な粘性を与え、パック剥離時
の刺激を緩和し、みずみずしくなめら
かな、ハリのある肌になります。

形成し、肌に優しく剥離し、一度むけた肌を生みだし、
生まれ変わった肌（なめらかなハリのある肌）にする。
安定性に優れたパック化粧料が得られる。